



# 学校だより

令和5年10月25日  
市川市立第六中学校  
校長 植木 昭貴

## 【進路決定に向けて】

3学年では、本日(10/25)より三者面談が始まります。面談は、主に「進路希望先の決定」を目的として行われます。例として高校進学を希望する生徒であれば、「どの高校を受験するか」、「第一希望の学校はどこか」、「合格の見通しはどうか」、「推薦入試(私立高校)を希望する場合は、その学校が示す推薦基準に当てはまるか」などの具体的な話が行われ、進路希望先の決定(絞り込み)をしていきます。



現在多くの生徒が希望している「進学」について、高校が合否を決める重要な要素に「入学試験」と「調査書」が挙げられます。この2点について簡単に説明します。

### ① 入学試験(公立高校では「学力検査」といいます)

テスト形式の学力試験だけでなく、面接、作文、適性検査(実技試験等)、自己表現などの試験を行う学校もあります。学力試験は、公立(県立・市立等)高校では全学校共通の問題で5教科(国社数理英)、私立高校では各校独自の問題で3教科(国数英)により行うところが多いですが、公立・私立ともに学校や学科によって試験の教科数が異なることもあります。また、理数科や英語科等、学科によっては特定の教科の得点に1.5倍などの倍率をかける学校もあります。新たな情報として、今年度より、公立の学力検査において一部マークシートによる解答形式の問題が導入されることになりました。

### ② 調査書

受験者の状況について記載する書類のことで、内申書ともいわれます。

公立高校の場合は、統一の様式であり、各学年における9教科の年間評定(1,2年生は3学期通知表で記載、3年生は12月末までのもの)、出欠の記録、行動の記録(基本的な生活習慣・健康体力の向上・自主自律・責任感・創意工夫・思いやり協力・生命尊重自然愛護・勤労奉仕・公正公平・公共心公德心の10項目で、優れている項目に○)、特別活動の記録(主に係活動や委員会活動、学校行事等での活躍状況)、所属部活動、校外における取得資格や入賞状況、総合所見等を記載します。総合所見は、頑張っていたことや活躍したことなどを記載します。評定については、3年間の年間評定の合計が考慮されます。例えば中1から中3までの3年間、全ての教科で年間評定が「3」であった生徒の場合は、3(評定)×9教科×3年間で内申点は「81」となります。

私立高校の場合は、独自様式の調査書がある学校もありますが、多くは公立高校と同じ、または類似の様式です。多くは公立同様3年間の評定を記載しますが、推薦入試においては、例えば、3年時の3教科や5教科の合計値など、各高校が定めた基準や条件等が受験資格や合否への参考となります。(推薦の考え方や実施方法は、学校によって異なります。詳しくは各学校のHPや資料をご覧ください)

また、調査書の重視度は学校により異なります(公立高校では10月より重視度が公表されています)。

※上記の内容は、令和5年10月時点のものであり、今後変わるものもあるかもしれません。

進路情報について、早いうちから基本的な仕組みを知っておくことは必要です。しかし、大切なのは、日々の授業や様々な活動を「受験のため」と考えるのではなく、「今の自分を充実させること」を意識して過ごしていくことだと思います。とかく進路先の決定に意識がいきやすいですが、それ以上に大切なのは、進路先で充実した高校生活が過ごせるかです。中途退学の理由として「学校生活・学業不適応」が最も多いことから、その高校の学力だけで判断するのではなく、自ら直接足を運び、校風が自分に合っているか、やりがいをもてる環境がそろっているか、無理はないかなど、「この学校で頑張りたい。」と心から思える学校を見つけることが大切です。